

刊行にあたって

日本農業研究所実験農場は昭和 38 年（1963 年）10 月に東京都田無から旧荃崎町（現在のつくば市稲荷原）に牛久実験農場として開所式を挙げ、新農場は畜産を主体とする近代的な企業的経営の実験農場として再発足した。詳細は、日本農業研究所五十年史（以下、五十年史とする）に詳しく紹介されている。

令和 3 年度から、それまでの黒毛和種の繁殖生産を直営しそれを対象に研究を行ってきた方式を、農業生産法人に行わせそこからデータの提供を受け研究を行う方式に移行した。農場の事業内容については五十年史では平成の始め頃までが説明されているので、この機会にその後の動き、特に平成 10 年代の終わり頃から令和となった現在までについて既存資料を活用し記録に留めておくこととした。この間には記録に留めるには不十分な期間もあったが、現状では出来る限りの記録となっている。

五十年史によると、実験農場は、「企業的畜産経営の実験農場」として総事業費約 1 億 3,700 万円（内、約 5,600 万円の補助金を地方競馬全国協会から支援を受けた）牛舎と関連する機械施設の刷新を図り実験農場として特色ある運営をしてきた。しかし、その後に発生したオイルショックや人件費の高騰もあって、経営を黒字化することは難しかったようである。このことは、その後の農場経営でも同様の問題に直面していたようであるが、環境保全型農業等の補助事業を始めとする外部資金による事業への参画、つくばの農業試験研究機関との連携が進められた時期もあった。

平成 10 年代に入ってから、実験農場では和牛の繁殖・肥育を中心にした取り組みを始めた。その後、職員の高齢化もあって令和 3 年度（2021 年度）からは農場の作業を全面的に日本 GAP 協会関連の株式会社つくば良農に委嘱し、農場職員はつくば良農の所属となった。今後は、畜産と園芸の耕畜連携が農場における調査研究テーマの一つとなる。この地に農場が再開所されてから 60 年近い年月が経った。その間に本実験農場へ賜った多くのご支援に感謝するとともに本実験農場に関わって頂いた皆様にお礼を申し上げ、今後の発展を祈念しているところである。

五十年史によると昭和 38 年に再開所式が行われたのは「牛久実験農場」となっているが、開所した場所は当時の荃崎町にあり、現在の住所はつくば市稲荷原である。「畜産の内容は酪農部門に主力を置き、補完的なブロイラー部門と副次的な養豚部門を配してスタートした」となっており、現在から見ると牛、豚、ニワトリと多角的に取り組まれていたようであるが、オイルショックやインフレにより経営はご苦労が多かったことは想像に難くない。酪農部門では、ブリテイッシュ・フリーズアン種に関して、日本獣医畜産大学（当時。現日本獣医生命科学大学）と提携して 乳房炎の調査を実施、その成果は農業研究（No 2（1989 年）～No 7（1944 年））に報告されている。

環境保全型農業は農林水産省の補助事業であり、特用家畜としてダチョウの飼養技術の開発については日本中央競馬会の予算を受けて実施した。

平成 10 年代に入ってから、BSE（牛海綿状脳症）や口蹄疫の発症によって全国の畜産関係者は大きな問題に直面することになったが、農場においてもその対応に追われたのではないかと想像される。平成 20 年代にはリーマンショックによる景気の減速、2011 年 3 月に発生した東日本大震災は農場においても被害を受けた。地震発生の当日に配達が予定されていた飼料が先方の都合で翌日に変更になっていたが、震災後は配送が全面的にストップしたことからの後も大幅に遅れてしまい、牛への飼料給与量が通常の 7 割程度に抑えて凌いだ日が続いた。放牧を控えることやロールバールサイレージについても給与に当たっての指導があった。建物への被害では玄関前の庇部分と事務所に隣接していた展望塔は震災の激しい揺れによってコンクリートにひび割れが発生して危険になったことから解体・撤去した（写真集参照）。

宿舎については 2008 年に全戸を解体・撤去し、跡地は社会福祉法人 欣水会へ売却され大規模特別養護老人ホームが建設された。同じ年に農場では肥育牛舎が新設され、その後、繁殖雌牛の分娩房及び子牛の哺乳・育成に利用されている。

農場の人の動きについては、資料編の 1 職員の記録に掲載した。農場長は、小山弘平さん、森山民紀さん、小川増弘さんと続き、その後は吉沢哲さんが副場長となられた（2011 年 4 月以降は農場長職を置いていない）。石井春夫さんが 2006 年 3 月に退職（その後一時非常勤の勤務あり）、井出豊松さんが 2011 年に退職（その後引き続き非常勤の勤務）、鯉淵学園学生だった猪足芳雄さんが研修を終了した後から 2007 年度まで嘱託として勤務され、岩崎敬さんが 2007 年 4 月に採用され 2011 年 4 月まで勤務された。宮下好広さん、吉沢哲さん、黒澤路子さんは、2021 年 4 月に株式会社つくば良農へ移られた。

令和 4 年 3 月

公益財団法人 日本農業研究所
理事長 田 家 邦 明